

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190700031		
法人名	有限会社 さわやか門前		
事業所名	グループホーム門前		
所在地	佐賀県鹿島市古枝門前甲1650番地		
自己評価作成日	平成25年8月10日	評価結果市町村受理日	平成25年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成25年9月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○一人ひとりがゆったり、楽しく、穏やかに生活されるように、相手の気持ちをよく聴いて支援している。 ○月に一度のピクニック(鹿島伝承芸能隊、のみの郷、東与賀町のシチメンソウ、ひだまりコンサート、県庁展望レストラン、嬉野ホテルさくら、大村シュシュ、佐賀城下ひなまつり、庭木ダム花見、大村菖蒲園、山茶花高原、武雄温泉ハイツ) ○「認知症を知る会」を開催。 ○書作、ビデオ、カラオケ、計算ドリル、音読、日中活動。 ○一ヶ月ごとのおたより ○年一回の落語会 ○近くの保育園へお遊戯会への参加や、保育園生が入居者に会いに来て肩たたきや歌をうたったりと皆で楽しんでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

祐徳稲荷神社の参道近くで神社行事を身近に感じられる立地である。民家改修型ホームのため地域に馴染んでおり、温かみのある環境で入居者中心のケアが行われている。ホーム長はグループホームの地域貢献を考えられており、その実践として、地域包括支援センターと一緒に「認知症を知る会(認知症サポーター講座)」を開催されている。職員も寸劇で参加し、グループホーム全体で取り組まれている。また、近隣商店での買い物や地域住民の相談窓口等、職員各々が地域とのかかわりに積極的に取り組まれている。グループホームの在り方を自分たちに問い、前進していこうと感じられるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり楽しく入居者と地域の方と過ごす事」でいいのかを職員と検討中	朝の申し送り、ミーティングで理念を振り返り、実践に取り組まれている。また開設して10年が経ち、職員全員で理念の見直しも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣保班の一員として、回覧板を回したり、班長をしたり、川掃除、敬老会に参加している。	班長や敬老会などの参加のほか、近隣を散歩中に挨拶を交わしたり立ち話をしたりと、日々の生活の中で交流をされている。今後、近くの落ち葉掃除を計画されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年古枝地区と浜地区の公民館を借りて「認知症を知る会」を開いている。(7月25日南舟津公民館16名参加、7月29日中尾公民館19名参加) 運営推進会議でも話し、協力していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で、「非常時にはサイレンが早い」「(認知症を知る会)は回覧板を回したら」等と話しが出たことを参考にしている。	運営推進会議を2ヶ月に1回開催され、ホームの取り組みや情報交換等が行われ、会議での意見を取り入れ、サービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターと共に「認知症を知る会」に取り組んでいる。居室が空室の時は、情報をいただく。	「認知症を知る会」や運営推進会を共同で行うことで、連絡が密に行われ協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	8月30日「高齢者虐待防止法について」の講演を聴き、次回のミーティングや個別に話をしていく必要があると実感した。	ミーティングや研修の中で、拘束による入居者への影響を常に問うよう意識付けをされている。行動の抑制になっていないか、職員間で話し合いを行い拘束をしないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	8月30日「高齢者虐待防止法について」の講演を聴き、次回のミーティングや個別に話をしていく必要があると実感した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しておられる方もあり、家族会や、運営推進会議でも学ぶ機会があり、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っているつもりだが、不十分な点、疑問点などはその都度尋ねてもらえるように、話しやすい関係を保っていけるように努力している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の面会時、家族会、受診時、利用料を持って来て頂いた時などに、意見を聞いたリ、それを運営に反映している	2ヶ月に1回の家族会や面会等で、入居者の様子を伝えたり声をかけたりすることで、話しやすい雰囲気を作れるよう取り組まれている。意見は運営に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時間や、その都度意見や提案を聞いている	月1回のミーティングを始め個別に意見を聞き、運営に反映されている。また日頃から話しやすい関係作りにも取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりがいろんな研修にバランスよく参加されるように計画し、それぞれの希望に出来るだけ合わせた勤務調整をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりがいろんな研修にバランスよく参加されるように計画し、それぞれの希望に出来るだけ合わせた勤務調整をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿島、太良、塩田のグループホームと毎月交流会で、勉強会に参加し、質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安な事があった場合、どうしたら安心して生活してもらえるかを皆で話し合い、出来るだけ早く実現して安心した生活を送られるように勤めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望などをよく聴きながら、ホームとしての説明もし、信頼していただけるように努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	かかりつけ医、ケアマネから今までの情報をより多く聴き、家族の思い、本人の思いを聴き、「その時」の支援を見極め、支援につなげている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者によって動ける方や、自分からしたいと言われるかたには、見守りながらしてもらい、お茶や、食事の時は、職員も一緒にゆっくり過ごすようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時などに意見や悩みを聴き、その家族の立場を考えながら、共に本人を支援していけるように努力している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来てもらいやすいように配慮したり、本人が電話をかけたい時にかけられるようにしたり、家の近くまでドライブに出かけたりしている	ドライブや地域の行事に出かけたり、面会しやすい空間作りや親族に声かけを行い、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格などを考えながら、食堂のテーブルの位置を変更したり、気分を変え食堂と居間で分かれ食事をしたりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	療養型の施設や、病院へ面会に行き、顔を見、話を聴くようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を出来るだけ実現できるようにし、生活しやすいように考え支援している	日々の生活の中で、趣味活動やリハビリの希望等入居者の思いを把握し、家族の協力を得ながら、実現できるよう職員で共有化し支援されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生い立ちを家族に記録してもらい、今までの生活歴を把握し対応していくように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりそれぞれ違うのでその人の状態や、性格を考え対応している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで話し合い、本人や家族、受診時にかかりつけ医の意見を聴きながら計画を作成している。日課表を時系列で作成中	本人や家族、かかりつけ医、職員の意見を聞き、毎月評価が行われ、6ヶ月ごとに計画を見直されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケースに記録したり、朝の申し送りで確実に伝えるようにし、実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	起床時の介助と朝食づくりを夜勤明け一人ですることが難しく、入居者にも待ってもらう事になる為、朝出をつくり対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時々近所の保育園より園児が20人ほど来られ、楽しく交流している。避難訓練の時に隣保班の方が来られたり、GH浜へ民謡会の方がボランティアで来られ、参加できるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	その方の今までのかかりつけの病院へ受診されるように勧め、定期受診は出来るだけ家族にお願いし、無理な時は、ホームから付き添い協力しあっている	入居者と家族の希望するかかりつけ医へ、受診ができるよう支援されている。状態の変化は、ホームより情報提供を行うようにされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や訪問看護師に相談し、適切な看護が受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は面会に行き、先生に病状を尋ねたり、家族が出来ない時は、必要な物をそろえたり、洗濯物を交換したりと、本人や家族と相談しながらしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に看取りのありかたについて十分話し合っていきたいと考えている。その方のかかりつけの先生や訪問看護が出来るのか、職員も吸引の研修を受ける必要がある	入居契約時に看取りの指針や、訪問看護について説明をされている。重度化や終末期は、家族やかかりつけ医、職員と話し合いを行い、意思を確認しながらケアに取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応、AEDを使用した訓練を年に一回消防署に指導をお願いしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災、水害等を想定した訓練を隣保班の方や消防団の協力を得、実施している	年2回、夜間を想定した火災避難訓練を行っている。地域住民や消防団の協力を得て、訓練が行われている。食料品や水等の備蓄も準備されている。棚の転倒防止やコンセントのチェックも行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は一人ひとりの性格を把握し、その人のその時の気持ちに寄り添った対応を心がけている	尊敬する気持ちを忘れず、気持ちに寄り添った声かけをされている。個人情報に記載されているファイルは、事務所で保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の気持ちに近づき、信頼関係ができるように言葉かけをし、思いや希望を表したり、自己決定しやすいように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調の変化をみながら、本人の意思を尊重した支援をするように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	枕元に鏡とくしを持っておられ、身支度をされ食堂へ来られたり、お出かけやピクニックの時は、スカーフなどおしゃれをして出かけられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事をし、楽しい会話をしながらゆっくりと過ごし、後片付けも一緒にしている。	日々の生活の中で好みを聞きメニューに取り入れたり、おやつ作りは季節に合わせて行い、一緒に食事を楽しむ工夫をされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜を多く使用し、その方の食べやすい状態を考え提供している。夏場は麦茶やウーロン茶をすぐ飲めるよう、クーラーに準備した。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は自力で口腔ケアされる方や介助が必要な方、それぞれに言葉かけをし清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心を傷つけないように配慮しながら、一人ひとりの排泄にあわせ、見守りやパット交換をしている。	自尊心に配慮した声掛けが行われている。トイレ誘導することで失禁が減り、不快な思いをしないよう支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	料理には野菜を多く使い、毎日のリハビリ体操を楽しく取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりのタイミングに合わせて入浴の支援をしている。歩行が困難な方にリフト浴を介助している。	希望に沿った入浴ができるよう、いつでも入浴ができる準備をされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ楽しく過ごしてもらい、夜間ゆっくり休まれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケースに薬の内容、副作用を書いたプリントをいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方にはモップ掃除や食器拭き、直し、トイレトペーパーの補充など役割をもってしていただいたり、カラオケ、ドライブ、散歩など支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、ドライブ、GH浜への参加、ピクニックなど外出機会をおおく出来るように支援している。	買い物やドライブ、ピクニックなどホーム全体で積極的に外出支援に取り組まれている。また個別の外出支援にも、取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていたい方は持っておられ、管理が難しい方は、預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望される時、自由にされるように支援している。携帯を持っておられる方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で書かれた書作を居室に飾ったり、廊下には、保育園からの写真や、おたよりや花などを飾っている。	季節感を取り入れたり、不快な音やにおいがしないか確認したり、環境が入居者に対して影響があることを理解し、居心地よく過ごせる空間作りをされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間で思い思いに過ごしたり、時には、他入居者の居室で話しておられたりと自由に過ごしておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを持って来ていただき、その方の部屋づくりを支援している。	写真や趣味活動の道具など、使い慣れたもののや好みに合わせ、居心地の良い居室作りがなされている。入居者の状態に合わせ、手すりの設置やカーペットなど環境整備にも取り組まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所にはテスリをつけ、安全で自立した生活が送れるように工夫している。		